椿説弓張月

拾遺

四

へ13
3908
22

へ13
3908
22

鎮西八郎為朝外傳 椿説弓張月拾遺 巻之四

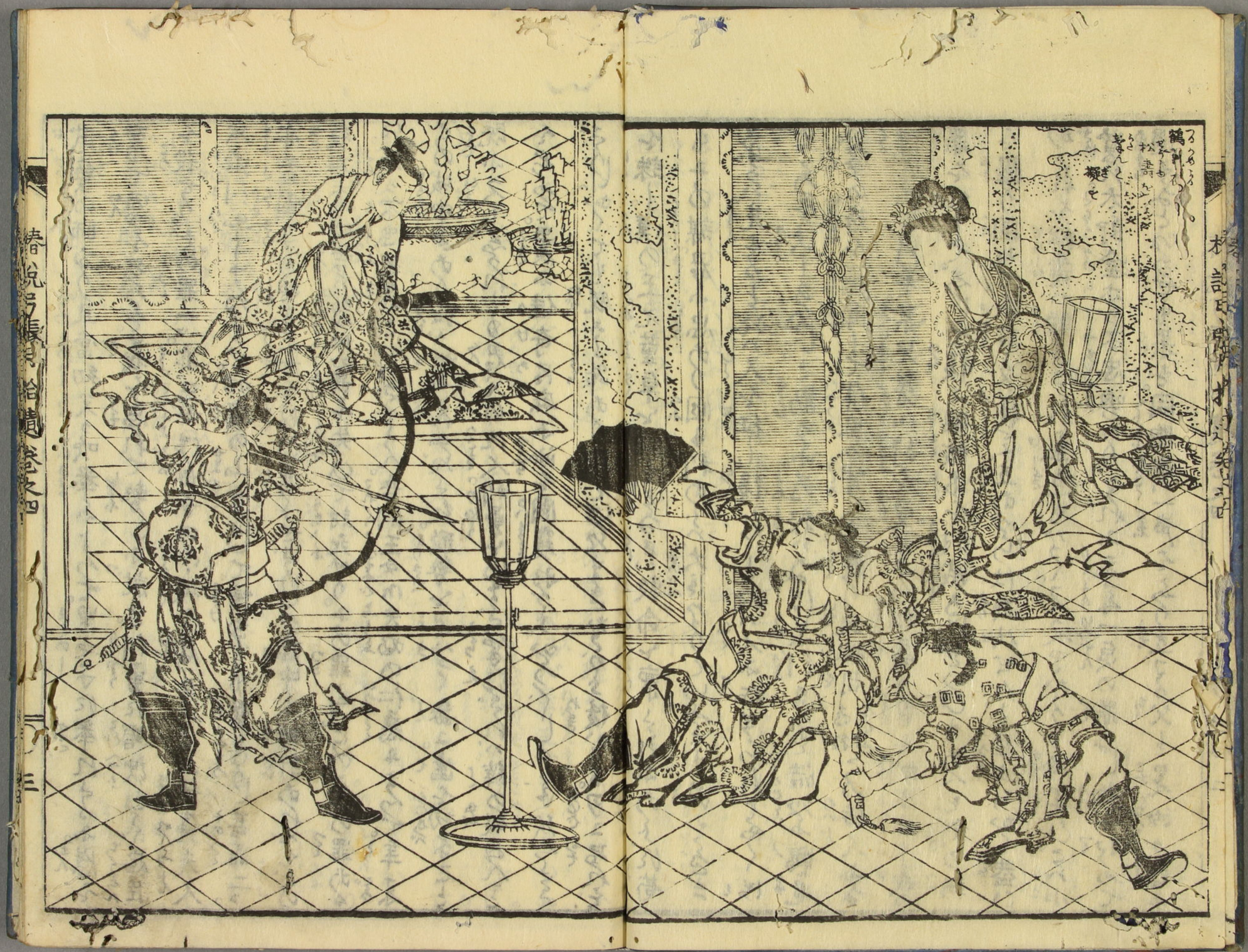
東都 曲亭主人編次

海棠を砍て為朝曚雲を見る
利勇を撃て鶴亀阿公を逐ふ

第五十四回

大里の按司八郎為朝、その夜さ更闌て。陶松壽が慌しく。東風手より来つるを。ものいふとおぼせしが。聽て閑室へ招れ入て。圭回
ものいふ。松壽を寒温を述もあへぬに。忙しく小膝をすゝめ。其かゝ
密山中に手を拱て。別儀はあらぬ。おりふ所あるとて。豫て南風
原の城より。間諜者を強しもて。事の為体を窺せしに。そのりの甲夜
ふ走り来て。城中に如此くの密計あり。明日ゆゑ諸按司の拜賀ふ
を以て。八郎按司為朝と下官を撃ちんとて。りの中ら准備をも

しけり。抑利勇ハ幼主を挾みて按司に號令し權勢をとく國王に異ならず然ども。その智におゐてハ懼るゝに足らねバ。所謂沐猴にして冕するものなり。加旃年来海棠が色に溺れ是を褻なれを殺しく。身の楽ことをのミせめて上ハ君真物も祐けざれバ。下ハ國人も從ハざれど。只生ながらその宍を啖んとのミおもへり。かゝれバ彼が謀によって謀を行ひ。かの便宜をもて速に利勇を誅戮し。民の塗炭を救ひ給へと頭をさしよして私語バ。為朝ゑみて嘆息し。わが心も亦よしと思へども。王子の仰を受ずして恣に大臣を殺さバ。叛逆の罪脱れがたからん。縦大臣十二分に部して。これを害せんと謀るとも。ゆるさゞる計策を施さバよしなからん。只病に假托て。ゆるされなバ志すべし。とおもひの外に回答あへバ。松壽亦いふやう。往古和漢の例を推に。藤の鎌足入鹿を誅し。漢の王允董卓を殺せしも。是皆勅命を禀ざるにあらねど。荀もその謀君に忠あり國に利あれバ。大臣なりといふとも放をるべきるなし。先ずるときハ人を征し。後るゝときハ人に征せらるとかや。後るゝを決しなさいと勧るに。為朝ハなほ兼てたりしを浩然に。鶴亀ハ事の趣を竊聞して屏風の背より走り出。按司なるこの佞人ども謀るれなひそ。某兄弟に許を受て。すぐ松壽が首を刎。不忠不義の罪を糺して。忠して後ハ國賊共を討滅ぼしといひもあへず。剣の柄を握り固めて左右より挾ミ立なバば砍伏せんと目上ちかく盍ひかゝれを。松壽ハ騒ぎすれ氣色もなく。え久てならぬ冷笑ひ。これ小賢し太郎金ぶが不忠與ふり。これに元来一点の罪なし。物に犯ふて過さぞといふせも果ず。同胞斉一声をふり立つる父を足汝がために


鶴亀
松書
きんと
擬せ

武藝の師なり。且當初父う吹挙ふよりて。里之子に挙れるふ恩を
稟て恩をそらで。義を忘れて勢しふ就き。利勇に媚諛しひく。忠臣
を殺せり。その罪一ッ。亦王女は母子の小城を落ふとて汝廉夫人
を殺し一生まゝ。姑場の山里に。情なくも殺せり甚罪二ッ。
亦査國と共ふ王女を救し進ずせざりしハ。意中ゝ奸計あらゝ。あ
故に査國吉ハ。忽地翼を失ひて討死せり。この罪三ッ。この三の罪ある
に。誰か不忠不義といはざるべきん。吾が王女は夫婦の仁慈ふよりて。年来
この城中ふあり。汝が世ふ光女だに。欺勢と人笑く毎ゝ歯を切ふこと
既ふ久しきれども君父の仇人利勇といふ賊ふ縛られ。縛の破きんこ
をそらで。曩ふ佳奇呂麻ふ汝を闚窺ふ。かゝくしくまれ
ざりしかくても脱ふ路ありや。といはれまきなるゝ抜かる。刃ふ倒れ

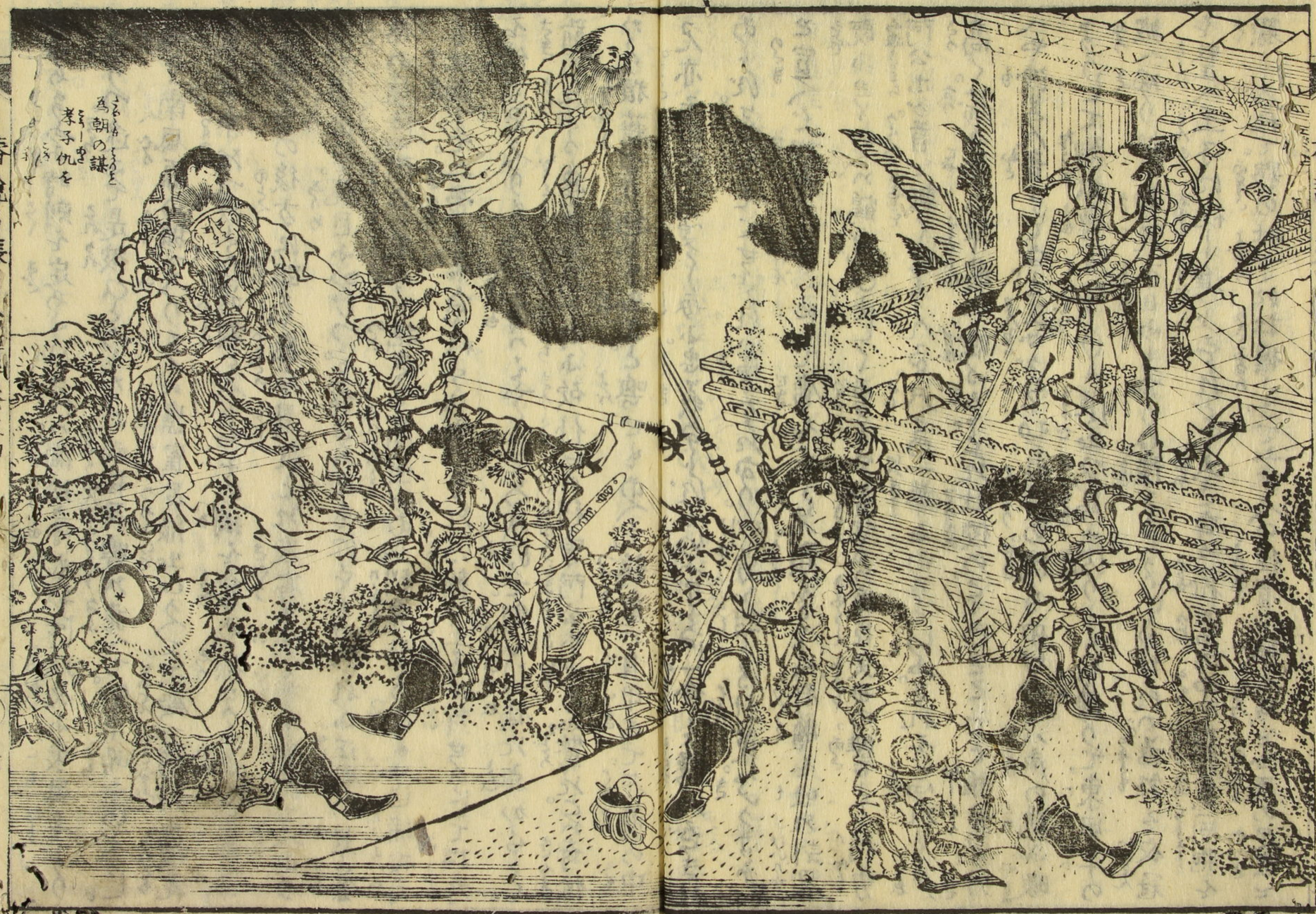
莞尓うら笑を。縁故をもゝふさられ。その疑ひハ理なり。この件のことふ
はきてハ。胸ゝ〳〵ことなれども。あらず。もし汝が寧王女ふ出ずるら
せんと。ゝ人ども。言ハ漏易きとり。そ。ゝまぐさ。八郎按司も伊呂れ。
某不肖なりとゝ人ども。爭ゝ廉夫人を害ゝ。なるべき。儚れ。やゝふ六
年に。なりね。夢歟。逝世ハ只苦場の山里ふ利勇ゝ軍兵充満て脱ゝかと
も愁ふ。王女を落ゝはゝ。ゝ。ん。廉夫人の
ゝん首級を。ゝ。利勇が色を解ゝ。その。ち越来の石橋ふ。封死
ゝ。苦鶴が。死首ゝ。ゝ寧王女の。ん首級。ゝ。といひ。ゝ。ゝ奸智
に長ゝ。利勇ふ欺く。苦心を一朝ふ説尽ゝ。ゝ。に王女ハ存命て。
佳奇呂麻ふ在ゝるはし八郎殿の訴ふ。ゝて。利勇ハ。ゝく松寿を疑ひ。
忠義ゝ。て王女を迎へ。密ふ。れを毒殺。て松寿ゝも殺さんと。ふふく

計校ん。そハ氣色ゆえ猜しなり。こいうゆえで寧王女を救ひ進ぜん
べうりやとさるゆかうさゆゑくども。おりひう絡つ。佳奇呂麻ゆえ走き。
王女ゆ拜渇しまれば。おのいひざゆ面赤まで。ひしゆ似あるべ。かくて
利勇が毒計を脱れゆんこと容易しとじめて公おちゆ。やがて
南風原の城ゆ冊き入れ。ちを絡ゆ。果して利勇が疑ひ解。君臣義ゆ和と
を好ゆう。亦某年某利勇に媚諛ひ。彼が門の狗と為りしハ。先師毛按司
の遺訓ゆ。そ査國吉と共ゆ死ざ。しハ。娘絡の忠義を多くいなり。さ是ゆ
査國吉ハ。行旧ゆ義をもりて討死。松壽ハ程嬰ゆ忠氏守りて阿容〳〵
と雖言ゆ従ゆ。彼ゆ為るのいと多く。これを為るの徒なるゆ為よ國家
ゆ〳〵び興らんとて。苦しれりのハ乱を絡る。世ゆ為ゆ忠臣義士なりと。
いひうけて目を押拭へ。今ぞいさめれ鶴亀も刃とおさめて嘆息し。

いひべきこともなかりけり。折しもあれ。王女ハ屏風をかんやりつゝ。もこ出
て為朝の傷に付り。襟ゆきめして松壽ゆ對ひ。東風平按司の心操さ
ありけるんと。ゆひなゆゆ。廉夫人を警なりしと。年某疑ひられゆゆ絡ゆ。
今胥語ゆ。さ。ゆて。その胸中ゆ揚えるに。足下の忠義を為るのこゆゆ。
ゆゆ家ゆ輙ハ離さんとそ。みゆうゆ刃系伏ゆゆ毋廉夫人の仁慈ハ。くをよし
なれ磯の浪。ふのき數ゆゆ沈こしなり。寔ゆ松壽微りせバ。ゆゆ多そこら
ゆり鶴亀ゆ。曙雲利勇がまに死ん。毛國掛なり。松壽ゆ。查國吉ゆ。
ゆゆ絡なり。忠臣義士ハありなゆら。國賊ゆ世をせゆゆゆれ逆臣のこゆゆ
時を得ゆ。蝸牛の角の爭ひゆ。中山。山南。山北と。ゆつゆれ〳〵この國の。
涙の鼓ハ何の時。ゆらもおさめん。とゆりに。袂を顔ゆ押當ゆまゆば。
落涙ハ目と見ゆめ。いとゆ。ゆ。恣もまゆゆゆ雄ゆ。禁めゆゆてゆゆゆ。

涙ながらあやもなかりけれ。當下王女は、ちごとく瞼をゆやこにうれ拭ひ。
嘯こゞ丈夫彼処ふて笑ひ。利勇ホゞ邪謀を。おん身の危窮と、まり
ながら。うちも驚たるつゆ。おぼしき上旨ある中ゝ。かゝれ大事況婦女子
のこゝかうまうしべてふ。ハ行〳〵祓ど。王子ハ僅に六才の小児なり。縱その
命を受とりこいつとも。名あつて実なれよ。ハ行ふべや。大切ハ細導顧ど。
文礼を小譲を辭せどとろ。いみしくの勇士もいふ。只ゝこゝろ決せ
られ。利勇が誅ー曚雲。うち滅しそ。國人を救ひのへかしと宜ふあそ。
乃軽はくまうえ。踐然として在せーぶ。扇を把て膝ふけき立いろ〳〵
所道理ハ稱へ。これ亦利勇とおそるゝにあらぬ。乱ゝ世の人心ハ
笑の中に刃とかくし。錦の嚢ハ毒を裹む。松壽なりともうち解こん。
太子を語ひがとと思惟して。再びこゝ推辭ーこ既ふその行ひと

又亦その言ゝ笑ゝ毎ふ忠義ハ〳〵といふこゝるし。今こゝ疑ふ〳〵きこ
あゝ〳〵。義を又て せゞれハ勇なれ文ハ。利勇と討とる計策ハ〳〵きこ
と宜ゝ〳〵松壽ハ欣然として席をとゝ〳〵。頭をもゞく肝膽を吐て計畧
既ふそゝ〳〵の〳〵ハ鶴亀ひとしく勇ゝこゝ。君ふハ逆臣父母の讎言る利勇
阿公ふが首と輙くとゝ〳〵ん。只ゝ一挙ふありといふこれを忘れく声
高く。揚る拳の早蕨や。燃るがごとれ壯佼のこゝろさこそと推量り対
へや洩ぎん音ゝとて。王女がとゞむれ憚の関もあけゆく八声の鶏ふ暇
まうして陶松壽を忙しげふ退出つ。馬ふ乃りとゝ跨りて。東風平の
城へゆりけり。却説本日ふもゆりね。豫こゝとうしるなれへ。為乾こゝ衣冠
を整へ王子に祝ー進ふこれとて。大きこる花盃の中ふ酒亀同胞を
駆ー入れて。夥の壯丁に扛擔ー。二三十人の後者を領て城と出馬の足掻と


為朝の謀
孝子仇を

そなへの方ふ時刻を定めらるれハ陶松壽もおなじ北及ふ東風平より
発りつ。途あて是彼ひとつふなり両按司曹ハ並べて。いよ〳〵路をいそぎし。
進く南風原の城へ入り給へハ。應窪呂緑出むかへて正殿へ誘引ふ彼花
籃ふ車ハつけらる。為朝をハ御ら其の綱を食よく徐ゆるふ歩ませ給へ。
松壽もその後方に跟く。廊を過れとて。左右ふ帷幕を垂れて人あり
とおぼしたる。尻目ふかけつ。まるりうともにさゝみ入れふ正殿の翠簾
搽あげし。阿公ハ王子を抱きて高座ふあり。利勇ハその次ふゆし。諸按司
を北面して。二帯ふ居ゐられる。その上ハ為朝ハ王子を拝せんとして松壽
を佶と見るハ。松壽ハ〳〵〳〵〳〵ハ剣を引抜て邪かへる。
前ふ立る遊窪と。只一打ふ砍仆せハ。利勇阿公ホ大きふ驚て。奇怪
なり。狼藉なり。抱ふも出よと。鳴せもめくを。鶴亀ハ身甲ふて花籃の中
より跳り出。刀ハ内〳〵ふ利勇を睨んと競ひ蒐ふ。利勇ハ手もとく周章
ふて。更ふ敵をハ及ばど身ハ躱して逃んとすを同胞左右より挟と
遊間もなく撃はゞふ利勇ハ脱るに暇なく剣をりて受とゞめ
二〳〵合戦ひ〳〵。孝心凝る同胞が陽の剣を拄ゐ。初太刀ハ鶴二の
太刀ハ亀が踏こむ鋒さゞりに。左右の腕砍割られ臀居ふ撞と仆る
を起しも立ぬ跨うて中城の按司毛國世が子ども鶴亀先考の寃を
雪ゐ。國の為ふ逆臣利勇を誅せること喜うけて。やゝそ首をうれ落と。
その隙ふ為朝ハ只一撃ふ呂緑を切伏せ。血刀引提く立ゐへ。松壽ハ
王子を取ゐ〳〵せんとて阿公ふ飛かゝれが阿公いよ〳〵慌忙て逆賊松壽。
王子ハ我〳〵なれやと叫ぶ後ふ松壽ハそ〳〵〳〵〳〵ハ阿公ふ〳〵〳〵と
身を反りて引とられる紬ふり放左右に王子を抱きそ〳〵〳〵。端く

逃去れば松浦ハさらなり鶴亀ハ母の仇人脱ぢとて嗔とあく追蒐
とりされば為朝松浦を搦捕らんとて帷幕の内ふ躯ひくる統登之
ふ暗号齟齬て出去と失ひ且為朝の武勇今にしりぞ。その猛勢
ふ辟易して。こゝ悉く降とふを。況て禄高き按司親雲上いひがはるた
里之子ふ至て手ふ手ふ弦を叩て拝伏して。吾侑元来野心ふ玉女八郎
君のおんゝ為ふ忠信を励しべく。命を助るとて勧解よりれば。為朝
かゝれ徒を殺さじ汝達固ふ先非を悔て。国ふ忠義を竭きんとなくば。
とゝく阿公を追ひとゞ兄王子と恙なくとりあつとて過半その中とさし
これハ淫婦海棠を捕んとて弓箭を手挟て統登之ゆ彼此ふ索
ゆふに海棠ハ紅粉襁の襴干ふ身を倚て。苑の花と眺めてをり。為朝
こゞろ統登之とおて。樓上ふ走り登りゆゝかりけゝ冷笑ひ

衝と身を起て襴より。花をりんとなる処を。為朝弓箭うち刺ひてよろ
川漂とをちふ。寵さゞりぶ海棠が。細首弗と射きりゆへ。怪しき
かゝ殘ゆ。黒雲隠くと立のぼり。煙の中に老ゝ法師。忽然と立
わられ。呵ゝとうち笑ふ声ゆうもに朦朧と形ハ消てなくゆ。為朝
そこの形勢に弓杖衝て佶とふ。さてハ海棠ハ朦雲が。幻術のなせ
所。彼禍獣ふ異ふ。罪なき駿の人を殺を妖法なりしと宣へば。衆皆
げふりと呑ひ。ひ。て。坐ふ舌を掉ひ。さる行ふ陶松寿ハ走る阿公と
追蒐とて。廣庭ふ跳り出られど。生茂れ樹立ふ隠られて。ふがなく
なりぬ。阿公ハ老られども。ゆゆ健ゆ。ゆ足いとゝく。王子と抱なるゆ
融のごく。樹間を走り繞るほどふ。松寿ハ忽地ふその往方とえうしなひ。
こゝろすゝ焦燥て。樹の枝を推て章ふ。ゆ拂ひけゝ索れ。

遂ひ奴らとびこれをうとをかくしし狂ふ鶴亀ハ仇人利勇を望とりん。総
ハ[illegible]阿公とゆハ脱さじと早雄のくや瀬ふあふてゆく水と堰もかの
ゑるこゝらにて伺肥奴くゑと失ひ氣牆の外面へ走り出れ折しもあれ
城溝の中に水音ゝて。稚児を右手ふさしめげ。潜り生るのあり。
こハ阿公なりとえてゑれハ。弱ん汗の樹蔭ふ躯ひ亀をゆくされは身
を伏て俟とゑゝ髪ふり乱と鬢のおれ毛かたのげて。隻手に絞る
綾の衣貿い君よ。啼泣ゆゆる。いざ懐へと抱き入れて。濡れるまに
ぬくゆ。迹を濁さと。柔ミゑ岸の小細竹をゆゝ草。身と跳ら
ゆて這ひ登り。ゆんとゑれハゑひもかけど。眼さえたゝゝ晃ゝ亀ゆ
刃を跳りこえ。亦奴りめぐれ右手の膳。丁と突ゑゑ煉の拳法叫
若とゞりて二足三足逡巡ぐ。まを聳ゼとて阿公ふねと呼かゑる。

る詰の一声驚くべし。こゝ久しく打かくる阿公が銑親を刀の鞘よ受とめて。こゝまでぶぬ仇人いちやく。水際の声のいと晴く。藪の中に隠び入りぬ。

第五十五回

按司を會して為朝曚雲を討　城郭を捨て賊将首里ふ走る

為朝既ふ海棠を砕て樓上をあらるゝ。松壽鶴亀を諸按司親雲上ふとともにあり。まつ吾仇八方ふてみれば。阿公と追留んとすれふ件の悪婆と王子を抱き。城の濠門より脱出ぬ。為朝はゞて眉うち顰め。阿公ハ原是貪婪の老婆なり。這奴脱ぬ去らんも何ほどのあらめ。只忽ふ捕られ。王子の人かゞ。阿公が敵地ふ走りて。曚雲が賊兵ふ捕られ。王子ハ本虞のあくゝ。誰が為ぞ義兵ふ揚べき。これぶ患れ所なり。諸君ふ云ふ部して。王子を索まわらせ。人くといそぐ。衆皆異口同音にて。そのゝ如くゝ。王子ハ妃腹くとも。世ども。実ハ出処定ならぬ。且按司を先王の駙国ふして。寧王女乃良人なり。はしや王子在ずとも。曚雲を討ふ。孰うその義ふ。ずとまうさん。されば吾倘ハ王子の往方。ゝれざるを然とせず。只曚雲が滅ざる禍患とて。利勇が貪り貯へる賊宝を散して。窮民ふ賑山南をうちおさめて曚雲を滅しゝ。頑くゝ。と言語を盡して諫しかば。為朝ちゝふ及ずして。且くこの議ふ。城中ふうちめぐりて。罪なき囚徒を放出し。宝蔵をひらきて。積る所の金銭を所司軍民ふ。うちなへ亦罪なくて。利勇が為ふ殺さ

ふたりの妻子が賑しまじくぶ。こゝをその仁信に感激し。拯ふに稿の雨に濕あし轍の魚の涸に入るごとくして。欲ぶことに限りなく。此君の為なるべしと。命も絶てをしからぬ。そこに曙雲と討ひ人城濠の埋草となるまでに。高き恩恵に報んと。ちかひさるあめりけり。かくしこれを為朝に利勇が苛法を去て賞罰を正くし遂に鶴を大和に亀を冨和るとして。南風原の城をもてふしものゝ斷なく。王子の往方を索もとめるべしとて。東風平へくだし。次の日大里へくだかくして。あるものゝもちもなく。王女に抱かゝりまひしうべ。王女を縛の越どづくどうちまて。一トくびい利勇が族滅せられとくらはしと。亦一トさびい王子の往方をれざるべいとはましくもひしまくを。かくて為朝に問切毎に歩をして。王子の往方をくづ探まわくふせ。亦首里に間諜者をはなつに。阿公が所在を定めんとしまふに月日のいさづふに行ふれど。王子の往方とゝもるまはしなく。その手も暮れぬ。春も流れぬ。なりしかば南風原東風平より松壽鶴亀が連署にて。人馬既よりの諸方の按司に牒じあして曙雲を討ひ人と勸る。為朝に時をそやしとのこ回答して。かるがしく動きたまうべ。王女はこの形勢をいひびひるしと。ふかくして今茲も亦九月の下旬ふなりにそれば。為朝俄頃に。軍議ありと觸ちして大里の城に諸按司を會集ひ人ば。東風平の按司陶松寿南風原の守將鶴亀小禄の按司儀翰。八頭山の土官田平に。こゝをこめ席に樂ざるの形なりなり。そのとき為朝は扇を勿に把てのたまふやうこれ。この土へ漂泊し。國の乱れはあるをりて。國王の女婿となる道。

位高く任重く諸按司おそる重せられて安然として日をおくる。豈本
来の面目ならんや。曠雲先王を戒逆し。王宮をあけて久しく逆成を
振へり。只恨らくハ大臣利勇國の為ハ忠を竭さず一時の虎威を逞し
て淫酒ハ耽り。冠を討んとせずして罪なき軍民ハ殺し。剥陶
按司と為朝を害せんと謀りしかぐハ己ことハ去年利勇を誅し
さり。志ありといへども。王子ハ阿公と奪ハれて平生の望を失ひ。
その所在を志ふん為ハ各位の催促を強止してかるがるしく軍兵ハ
起さず。こハ曠雲が幻術ハ怕るゝにあらず。王子ハ自己ハかへりまね
らせども為朝怒ハ大臣を殺し。王子を逐て山南省を奪へり。人
たのもしとりこ絶若しく敵地ハ至れまで。志のびくハ孤力
窮まるゝを陳といへども。王子の存亡志ハ由ハ月日ハ流れ水ハ
絶えず。時と勢ひハ夫ひ易し。人生七十古来稀なれバ為朝も死し
ぬるくハ亦死しまじ。孰か曠雲を滅さんハ今ハ是非ハ及ばず王子
の所在を志ひとりこそハ苦しく。尚寧王の嫡女なれバ今日の主人公と
ぞ。されバ王女ハ力ハ妻なるかぶ。尚寧王の嫡女なれバ今日の主人公と
定め翠簾を垂て彼処ハ有りと雖ども。これを指示ハ人ハ。これを指示
いと理ありと回答ず。坐ハ感涙を拭ひ翠簾の中ハ王女の
声して。志ハ志ふざれいひ。ひとりとそひ。海ハ宜ふ
隨ハ洩ハ。為朝かさ紙て松壽ハ對し論ハ按司ハ智謀ふ。且
地理ハ精細と。この処ハ北の方首里ハ鄰て兵を志ハ便め
ども山路陰岨ハして進退自在ならずべし。ハ平あらハ。ハ
宜へハ松壽を生くまうこの処首里ハ遠く紙ハ敵ハ門樂

の備あれば。如之。山路羊腸として。兵をとゞめ[illegible]
攻入ゝんとすれとも。縣身方の士卒と失して。労して切をはゞ[illegible]
愚按をりて謀るとれゝ大里ゝ智勇の大将をのとしおれ君ゝみづ[illegible]
諸按司とおて竊ゝ川良の津とゝ[illegible]
浦添の城を攻おとし。宜野湾。美里の地を畧ゝ北より南ゝうち
向ゝ。長く驅て首里を攻のゝ。曚雲[illegible]城を出て戦と決[illegible]
ゝ[illegible]とゝ大里ゝ殺[illegible]身方の大勢二三百の逞兵
をおて山路ゝ[illegible]登り。火急ゝ敵の背と襲ゝ。曚雲幻術あり[illegible]
いとゝ前後と敵をうけて。防ぐに不ゝ[illegible]。忽地橋[illegible]
[illegible]釋吉ゝ[illegible]ゝ速ゝ[illegible]ければ。衆皆驚ゝ嘆賞し[illegible]謀と
惟幕の内とめぐらして。勝[illegible]を千里の外ゝ決をるの妙策なり。

と稱ゝかゝ。為朝やゝてこの議ゝ[illegible]
[illegible]の背と襲ゝべしと。同ゝ人ゝ。松[illegible]
つゝけれ[illegible]智勇ゝ父毛國[illegible]風ゝ[illegible]の同胞ゝ[illegible]
かゝゝと答[illegible]。[illegible]亀[illegible]欲ゝ。曚雲ゝ君父の仇なり。[illegible]
賊退治の時ゝ[illegible]。小雲[illegible]
為紀[illegible]ゝ[illegible]笑ひ。進[illegible]退く[illegible]
聽ゝ[illegible]と[illegible]ゝ。進[illegible]を欲し退くと厭ゝ。[illegible]
[illegible]の同胞をりて先陣[illegible]ん。と[illegible]
人を擇むべし。王女ゝ[illegible]前妻。白雉[illegible]智謀勇力。[illegible]
ゝ恥ぞ。且士卒の[illegible]敬[illegible]ゝ[illegible]
をりて[illegible]の衣[illegible]軍とし敵の[illegible]を襲[illegible]朝[illegible]我[illegible]

る玖て女人を大わわせしなんとあさみ給ふ。ものもおくんぞ。往昔[illegible]
君形名ぞ妻ハ。こぞら女人数十人をわて東夷を征伐。唐高原
の洗氏といふ女子ハ三軍に将として百越を威服せり。り[illegible]功
ゐ[illegible]ことあらぶ。婦人なりとも用ゐべし。各位[illegible]
宜へ。松[illegible]ハ諸按司とともにまろびゐ。王女みづから掛[illegible]の大わと
あてうち出まわぐ。君ハ南ゐ向ひ。王女ハ北ゐ向ひ。陰陽和合[illegible]勝利
掌と指をゐ[illegible]と回答[illegible]かば。王女もこれを[illegible]ひてぬかく
故ひ仰ぎ[illegible]。[illegible]ふ為朝ふ[illegible]ゐ王女ゐ[illegible]器代ゐて掛[illegible]
の大わと[illegible]ゐ小禄の按司儀翰ハ頭山の土官田[illegible]ゐ[illegible]
五十にあまりて頗思ゐ[illegible]ばこれふと[illegible]ゐ王女[illegible]
疑ひ。亦[illegible]亀石先鋒として松寿と軍師とし為朝こぞふ中軍に

将として千三百騎を二手ゐ[illegible]ゐ。その内三百騎ハ王女ゐ[illegible]
掛[illegible]より進ひ[illegible]て軍議日ゐ[illegible]整ひぬ時ゐ大日本安徳天皇
の寿永元年。九月廿八日の暁ぞに為朝ハ一千の逞兵[illegible]率[illegible]
大里の城を出[illegible]日佐敷間切の名ゐ人馬を休め[illegible]馳加ふる士卒と
ちあひ遂ゐ川良をうち越て。[illegible]嶽の麓を徒り出。短兵急ゐ
浦添の城際ちく攻よせゐふ。是ふ[illegible]ゐ[illegible]雲ハ棟孫。奇律之。全廣
ゐを[illegible]び集合。南風原ゐて利勇ぞ[illegible]ゐ好景と[illegible]
説ちぞ[illegible]ふやうぞ謀ひ[illegible]違ぞして[illegible]既ゐ殺されぞ山南
の十餘間切悉彼為朝ゐ属せり。ちれども為朝ゐ[illegible]智勇ゐ[illegible]
かぞ[illegible]ひく此方と攻んとゐ[illegible]その故ハ利勇ぞ殺されぞ日阿[illegible]
を抱き去て竟ゐ所在をちふ[illegible]ぞ。是一ッ去年五穀登[illegible]

兵糧ハ乏シクシテ足ニツテ亦仰テ天文ヲ仰ギ為朝ノ命運ヲ
竭ミ。カレバコヽヨリ彼ヲ攻ルモ益ナシ。ヒヽハ為朝ノ秋ノ田租ト
ヨクヨクノ果ルヲマチテ首里ヲ捨ンと議セラレタリ。汝ハ諫テ曰ク
ヲ以ヨと説示セバ。九月ノ下旬ニ至リテ。陽ニ。亦棟孫ハ全廣ハヲ
集合ていきう。曩ニモ説諭セシ如ク。既ニ為朝ハ冨衆ニ決シテ攻
ヨセんとすれと。且夕ニ及ベリ。彼為朝ハ勇ノ儔ニアラズ且陶松濤
これを謀異てふく謀るものこそ。王女と謂ふの大ねとし大里の山
路ヲ越て不意ニ背ヲ襲んとす。ヒロンドモ千里眼ヨ漏れ、
ことなハれ。更ニ怕るに足ラズ棟孫ハ亦浦添ノ奇律之
を宜野湾とす。全廣ハ五百騎ヲ率て。那覇ノ港口ノ浦曲ヲ繞リ。
赤禄ノ旗ヲ以攻ヲとして南風原ノ城ヲ接ル嶋袋ノ辺ニ火ノ煙ヲ

ヒヽバ軍兵ヲ二ツニ分て。東風平大里ノ城ヲ乗ント。直ニ王女ノ背
ヲ襲ヒ。一戦ニして擒ニスベシ。亦棟孫ハ奇律之ヲ為朝ヲ拄て且く
戦ヒ勢ヒ竭ヒ。ヒヽ城ヲ捨テ乱走シ。敵ヲ誘引
シ。ヒヽ城ヲ謀ヒ。と説示セバ。衆皆欣然として領掌ス。ツヒ
法君ハ神没不測の妙計ヒ。為朝王女ヲ擒ニスベシ。何の
疑ヒ。ヒヽ。と祝して。おの〳〵出陣セリ。為朝ハ鶴亀ヲ先
鋒として。浦添の城ヲ攻ヨせ。城の大将三司官棟孫数百の賊
兵ヲ率し城ヲ出て。陣ヲ迎戦ヘバ鶴亀真
先ニ馬ヲ出して。棟孫と戟ヲまじへ左右ヨリ刺ヒ。ヒヽ棟孫竟ニ
敵ヒ。ヒヽ。馬ヲ拍ヒ。ヒヽ逃走ス。為朝ハ賊軍の乱
進め。勢ヒ潮の涌ガ如ク。去ヒ。ヒヽ路ヲ塞て。棟孫ハ憂ヒ城中ヘ

馬朝
みこと
曙雲を
破る

入くんとせんと豫さく謀りしるなれば首里ゑ投てぞ敗地さかくしゑ
行ふ為朝さ輙く浦添の城を落し長く驅て直ふ宜野湾ゑ吹くん
こゝく。その夜い具志川ふ屯し。ちゞし人馬の足を休め東雲ゑ渡さ
北及ふ。まづ行侯さ以敵の中ゑ窺しまふ。宜野湾の賊将奇律ゑ
さ浦添の城ふ膽を冷したりくん。夜の中ふ城ゑとてゑ遁れていと
注進さ為朝これを聞てうち笑ひ。烏合の賊軍つゞ武勇を聞あら。
戦ゑして逃走ゑ。さもあくん。さもありなん。今い背ふそふ敵ゑ。この
処より首里まゞい。里数いくゞくあゑと問ふ人ゑ。鶴亀ひさく
さくみ出て。より首里へい遠くふゞ。宜野湾の西南ゑ亀山あり。この
処より首里ふ属さ亀山の麓ゑ末吉と唱ふ末吉の南ふ西儀保
あり。朱平村の北を。なゞて儀保と奥ゑ越まゞ赤平ゑり。

赤平に石虎山あり。みなこれ龍宮城の北ふ當れり。ゑ〜石虎山さ
取りあゞ。城ゑ攻ゑふ便宜なゞし。と回答しかゞ為朝ふく敬ゞて
ゆくゞ軍兵ゑ三手にゑれやゞて亀山ふさくみ入りゑへ松毒凍
てきうゑやう。曚雲い漢の張角ゞ流ふして。その幻術量ゞ。ゑるふ
棟孫奇律之ふ城を捨く走りしゑ。ふゑゑ謀あゑゑゑなゞし。再ニ
賢意さ廻くさゞうりや。と流しかゞ為朝笑てうち点ゑ。これもゑゑ
ゑゑゞふあゑゞ凡幻術さりて。人の眼目さ眩惑し。種々の妖怪ゞ現
ゞるさゑゑ或さ獣の鮮血或い人の糞汁ゑ紙ゑかくれゞ幻術忽地破
ゑくりのなり。豫てこのゑゑさゑゑゞ故に獣血人糞さゞて汚穢りのゑ。
黛の桶ふ貯て陣中ふ齎しまわり。先鋒の兵ふい。おゞく長ゑ柄杓
を准使しり。曚賊ゞ。あゑゑゑ術を行ふとゑるくゞ速ふ決ぎかけて。

撃破るべしと仰せられ。鶴亀同胞の誼を受く。秋の水の決ごとく。
亀山をうち喩はし。末吉を攻かくれば。棟孫。奇律之一手みなくづく。
こゝ以破られじと防ぐ戦ひしぶかりしてひ退くゝ。鶴亀ホ奮撃
あてこれを追ふこと甚急なり。その勢ひ破竹のごとくなりしかば賊の
西将儀保も馬を駐めけゝど。赤平さくみうち捨く。部宮城へ逃入り
まくゝ。